

4月14日(火)

いつくしみ深い神様

聖書朗読 詩篇 145:1~13

主はすべてのものにいつくしみ深く、そのあわれみは、造られたすべてのものの上にあります。
詩 145:9

なんと驚くべき讃美でしょう。詩篇145篇は神様の偉大さといつくしみを讃える喜びに満ちています。私たちが今日、この主を讃美する歌に加わるよう招かれているとは、なんと素晴らしいことでしょう。

この詩篇の箇所は、自らが積極的に行うことを表す言葉で満ちています。あがめます、ほめたたえます、賛美します、思いを潜めます、高らかに歌うでしょう、感謝し、ほめたたえます。これらは受動的な姿勢ではありません。神様のいつくしみを伝え、それによって他の人々が神様を知ることができるよう呼びかけるものです。

神様のいつくしみは、その御力やご栄光だけではありません。それは神様の憐れみ、思いやり、恵み、そして特に赦しに表されています。私たちは皆、赦すと言われることを嬉しく思いますが、その同じ贈り物を他者に与えることは、はるかに難しいことです。けれども、全宇宙の神様は、私たち一人一人に惜しみなく赦しを与えてくださいます。

この詩篇の箇所は私たちに希望と、主を讃美することへの明確な道筋を示してくれるものです。主をあがめ、御名をほめたたえ、奇しいわざに思いを潜め、主に喜びの声をあげ、感謝を捧げる。そうするとき、私たちは決して終わることのない讃美の歌に加わることができるのです。

讃美歌 91 とこしえの神は みちからもて

祈り お父様、あなた様の慈しみと憐れみに感謝します。感謝の心をもって、あなた様を礼拝する道を示すみことばを与えてくださり感謝します。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

テキサス州 ラボック / シェリー・リームズ

4月15日(水)

神様のみわざを行う

聖書朗読 詩篇 146:3~10

父なる神の御前できよく汚れない宗教は、孤児や、やもめたちが困っているときに世話をし、この世から自分をきよく守ることで。
ヤコブ 1:27

今週、郵便配達員から少なくとも5通の手紙を受け取りましたが、どれも私の関心、資金、時間を必要とする活動についてのものでした。さらに多くの依頼メールが届いています。あなたもきっと同じようなメッセージを受け取っていることでしょう。私たちは、自分たちの持っているものをどこに寄付するかという難しい選択を迫られています。

こうした決断の指針となる基準を探す際、詩篇146篇を改めて読むことが助けになります。この箇所には、神様が顧みられる人達のリストが記されています。しいたげられる者、飢えた者、捕らわれ人、盲人、かがんでいる者、在留異国人、みなしごとやもめ。主はこれらの人々にどう向き合われるでしょう。詩篇の著者は、しいたげられる者のためにさばきを行い、人々の必要に応じて、パンを与え、解放され、目をあけ、起こされ、守り、ささえられる神様を讃美しています。

もし私たちが神様に倣い、義とされる者の仲間に入れて頂きたいと望むなら、傷ついた人、飢え悲しんでいる人、無力な人の必要に応えなければなりません。私たちは、神様が彼らを顧みておられるという良い知らせを分かち合い、彼らが必要とする助けの手を伸べることができます。今日できる善い行いを探しましょう。

讃美歌 390 やさしく友をむかえよ

祈り 万物の神様、この地上で慈愛に満ちた働きを行う機会を見出させてください。あなた様を証しするにふさわしい者となるよう、意志と知恵を授けてください。私たちの模範であるイエス様によって、アーメン。

コロラド州 デンバー / キャロライン・ハンター



4月16日(木)

お手本

聖書朗読 箴言 2:20~22

私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。

Iコリント 11:1

正しく歩むべきだと言うのは簡単ですが、実際にそうするのは別問題でしょう。そして、良いお手本となる人物を見つけるのは、さらに難しいことです。現代において、誰が子供たちの模範として挙げられていますか。私たちのお手本は誰でしょう。

私たちの社会が称賛する有名人、アスリート、俳優、ミュージシャン、インフルエンサー等は、時に傲慢であったり、不道徳であったり、さらには法を軽視するといった姿勢が見られる事がありません。教師やコーチ、牧師といった信頼される立場の人たちでさえ、時に痛ましい失敗を犯し、彼らを尊敬していた人々を傷つけ、誰を信頼すべきか分からなくさせてしまいます。

では、どこに目を向ければよいのでしょうか。パウロは、『私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。』と言って明確な答えを示しています。私たちがイエス様に目を留め続けるなら、単に『良い人々の道』に歩むだけでなく、あらゆるものの最高の模範であるイエス様ご自身へと他者を導くことができるのです。箴言は、私たちが従うべき人々の姿について教えています。彼らが完璧だからではなく、主の前に誠実さをもって歩んでいる人たちだからです。あなたは今、誰に従っていますか。

讃美歌 125 わかき予言者、主なるイエスよ

祈り お父様、子どもたちがイエス様に従うことを学んでいくとき、親が子どもたちの必要とする敬虔な模範となることができるよう祈ります。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

テキサス州 スティーブenville / デイヴィッド・ビアーデン

4月17日(金)

神の導き

聖書朗読 箴言 4:20~27

訓戒を堅く握って、手放すな。それを見守れ。それはあなたのいのちだから。

箴言 4:13

8歳か9歳くらいの、いつも自分の思い通りにしたがる男の子がいました。ある日、父親がその男の子に、「フィリップ、いつも自分の思い通りにしようとするのは良くないよ。」と言いました。するとフィリップは、解決すべき課題を与えられたかのようにうつむきました。けれども、しばらく考えた後、彼はこう父親に言いました。「パパ、もし神様のみこころが、僕が選んだ道だったとしたらそれをしていいんでしょう？」彼は、自分の思いを通したいと思いが勝っていましたが、神様のみこころを行なうことの大切さも感じたようです。

神様のみこころに従って生きる時、私たちの道は暗くなるどころか、ますます明るくなります。(Iヨハネ 1:5~10) 私たちは、子どもが親の手を握りしめるように、安心して私たちを導き守ってくださる知恵を堅く握って、手放さないようにしましょう。神様の知恵の内に留まるなら、神様は私たちをつまずかないように守ってくださいます。(ユダ 24)

この箇所は自分自身を顧みさせてくれるものです。私の耳には何が聞こえるか。私の心にあるものは何か。私の口は何を発しているか。私の目は何を見ているか。

もし私たちが知恵の道を行くなら、神様は私たちの道を守り、私たちの歩みを導き、私たちの人生を完全なものにすると約束してくださっています。神様から離れて自分の道に行くことは、常に失望へとつながります。賢い選択をしましょう。

讃美歌 519 わがきみイエスよ

祈り お父様、あなた様とあなた様の御言葉に私の目を向けさせ、私の歩みを導いてください。私はあなた様に忠実に従う者となることを願います。イエス様の御名によって。アーメン。

ミシシッピ州 オリーブブランチ / エディC・ルイス



4月18日(土)

賢い助言を求める

聖書朗読 箴言 15:22

密議をこらさなければ、計画は破れ、多くの助言者によって、成功する。

箴言 15:22

友人が中古車を購入しようとしていたのですが、契約書にサインする前に信頼できる整備士に電話を掛けました。間もなく、その整備士は、その車に、数千ドルの修理費がかかる重大な欠陥を見つけました。友人は結局事なきを得て、その場を去りました。後日、彼は笑いながら、「人生で掛けた電話のうちで最高の電話だったよ。」と言っていました。

人生はこうした瞬間で満ちています。事の大小を問わず、良い助言が全てを変える瞬間があります。祈りと聖書によって導きを与えられますが、神様は賢い人々も与えてくださいます。指導者、両親、信頼できる友人、教会のリーダーたちは、自分では気づかない盲点を指摘してくれます。

初期の教会はこのことを理解していました。困難な決断に直面した時、彼らは集まり、祈り、共に耳を傾けました。(使徒15章)彼らの強さの一つの声からではなく、神様のみこころに従いたいという共通の願いから生まれたものです。

私たちはしばしば、一人で物事を解決しようとしませんが、神様の知恵は単独で追求するものではありません。あなたが決断するとき、取り入れるべき賢い助言は誰のものでしょうか。

讃美歌 84 かみにたより、主にしがえ

祈り お父様、あなた様の知恵を映す人々を私の周りに置いてくださり感謝します。彼らの助言を求めようとする謙虚さと、あなた様が導いてくださる道を歩む勇気をお与えください。イエス様の御名によって。アーメン。

アリゾナ州 フィニックス / ジョスリン・ブラウン

4月19日(日)

信頼し従う

聖書朗読 エレミヤ書 17:19~27

御名を知る者はあなたに拠り頼みます。

詩 9:10

「私を信頼できますか。」救急医がそう言った時の彼の顔を今でも覚えています。16歳になったばかりの私は、激しい衝突事故で、車のフロントガラスを突き破って投げ出されました。顔は傷で裂け、胸は強く打ち付けられ、本当に自分は死ぬのだと思いました。私はただじっとして信頼するしかありませんでした。

なぜエレミヤはイスラエルの民に安息日を守るよう強く求めたのでしょうか。それは信頼の問題でした。エレミヤはユダの民に、神様に頼るという契約を思い出させたのです。安息日に休むことは、その信頼を目に見える形で表現するものでした。古代において、7日に一度休むなどということは考えられないことでした。けれども、神の子どもたちは休むことができました。なぜなら、神様が昔も今も変わらず備えてくださるお方だからです。私たちは働き、神様は祝福してくださいませ。

後にイエス様は、神様は私たちのために安息を与えてくださったと語っておられます。神様が私たち自身よりも私たちの必要をご存知だと、私たちは信じているのでしょうか。神様の御手の内に憩うことを忘れると、私たちは、神様ではなく自分たちこそが備えることのできる者だと錯覚するようになります。

私達も、自分自身の物語ではなく、神様の物語の内に生きていることを思い出す必要があります。働くことは神様のみこころです。しかし、常に神様こそが備えてくださるお方であることを意識しておかなければなりません。働いて、神様の御手の内に憩うなら、祝福が与えられるでしょう。

讃美歌 296 こころみのあらし

祈り 神様、あなた様の造られたものの中で働く力を与えてくださり感謝します。あなた様が備えてくださることを信じ、休む必要を思い出させてください。最善を知っておられるあなた様を信頼し、愛と感謝をもってあなた様に従う者とさせてください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン

テネシー州 ブレントウッド / アール D・ラベンダー